「入間川青年会」御嶽講について

入間川青年会講元　中島　雅人

はじめに、まだ立ち上げて日も浅い私達「入間川青年会」の紹介のために、歴史と伝統ある広報誌「武州みたけ」の貴重な紙面を提供していただきました御嶽神社に、厚く御礼申し上げます。

私達が住む埼玉県狭山市は、都心から四十㎞県内に位置し、関東ローム層と清流入間川が運んだ肥沃な土壌のもと、古くから、養蚕・茶・牛蒡の栽培が盛んで、現在では、特産の狭山茶をはじめ里芋・ホウレンソウなどの農産物が有名な、緑豊かな田園都市です。

一方、昭和四十年頃から開発が始まった工業団地には、大手自動車メーカーを始め菓子・乳業等の工場が立ち並び、また、都心のベッドタウンとして、戸建住宅や中高層住宅の開発も行なわれてきました。

私達「入間川青年会」は、そんな緑豊かな一方都市化も進行する狭山市において、代々家業である農業を継ぎながら、消防団活動をしてきた青年農業者の集まりの御嶽講です。

当地域には古くから、市内入間川地区東部の「峰」集落を中心に活動してきた「峰講」という講中があり、当時の峰講は自転車やオートバイの荷台に奉納品の収穫物を乗せ参詣した話も耳にしましたが、参加者の高齢化に伴い、現在は休講となって久しいと聞いています。

そんな中、「五穀豊穣」「地域防災」「家内安全」を願い、若い農業後継者である私達が、毎年収穫物を携えて御嶽山に参詣するのも意義があるのではないか?との考えのもと、自然発生的に始まったのが「入間川青年会」です。

御師は、過去「峰講」で大変御世話になっていた、鈴木一宮氏（当時は、亡くなられた先代）で、私達と同世代であり、また現役消防団員という事で、御嶽山の歴史・講の由来等についても、気さくに解りやすく説明して頂き、大変楽しい「直会」のひとときを過ごさせて頂いています。

立ち上げて日の浅い講であり、歴史・しきたり・作法等解らない事が多いですが、御師、諸先方の御指導を仰ぎながら、同世代の農業後継者のみならず、更に若い人達にも講への参加を呼び掛けていきたいと思っています。

最後に、御嶽神社の御隆盛と、鈴木一宮御師の御健勝・御多幸、多くの講中の今後益々の御発展を御祈念致します。

地域と人をつなげる「講」について

天野　光紘

昨年、平成二十三年五月一日より十五日の期間、当神社において初めての「大口真神式年祭」が斎行され、講中はじめ多くの崇敬者の皆様にご参拝いただきました。その後、この式年祭を通し、再び来訪して下さる方々や、またテレビの放映もあり、多くの参拝者をお迎えすることとなりました。併せて、愛犬の御祓い等も増えてきております。

昨今は様々な問題を抱える不安定な世情となり、また大きな災害を受け、地域社会・人とのつながりを大切に考えたい世の中となっている気がします。

当神社の運営に義務と責任を持つ三十二軒の社家（御師）の一人として、担当する「講」を父から受け継いでから四十二年になります。この間、担当する地域の変貌には驚くばかりです。この状況は、昭和三十九年に開催された東京オリンピックが近代的な新しい時代へのターニングポイントとなっているような気がします。そして、バブル時代を経て、特に「相続」が発生すると多くの場合「畑」が宅地に変わっていきました。こうした変化は、地域社会の人と人との絆に影響を与え、「講」から一人また一人と脱退せざるを得ない状況が現れてきています。

しかしながら近年担当する「講」の多くでは世代交代が進み、講員の人数は減少しつつあっても継承はされております。年代的にも五十才代から七十才代前半の人達が中心となり、「御日待」や「講」の親睦旅行などで講の仲間との結束を強めており、私自信もそれに同行したり、交流を深めております。

先般ある講元様と話し合う機会がありましたが、その講元様の話によれば、「地域で相続関係が発生すると、90％近い割合で問題が出る。日頃から親子の話し合いがないと解決は無理だ。」と話されておりました。経済的豊かさと反比例し、親子が一つ屋根の下で生活を共にしない家庭が多くなって来ている現在、また職種も違ったりと多様化している現実をふまえ、家族生活を思い起こし出来ることから実行していくことが求められているのではないかと思います。今生活している地域の中で組織されている自治会や町内会の活動に目を向け、出来るだけ参加していきたいものです。「講」の組織も、それぞれの地域の中で大切な役割を担っていると考え、御師の立場からも「講」をささえ、出来得ることを実践していければと思います。

本年一月十五日、毎日新聞朝刊の「今週の本棚」覧で『オオカミの護符』（著者：小倉美恵子氏　新潮社刊）を法政大学教授の田中優子さんが取り上げておりました。この本は、去る平成二十年に「ささらプロダクション」から映画としてまず公開されており、多くの反響のあった題材です。著者小倉美恵子さんの家にある土蔵の扉に貼られた「一枚の護符」をめぐり著者が抱えていた謎を追うことから始まる旅の内容です。この映画（本）には、著者が生まれ育った川崎市宮前区土橋に結ばれている「御嶽講」の様子が興味深く描かれております。「講」という組織についてご理解が得られることと思いますので、是非ご覧いただければと思います。地域と人とのつながりが未来を広げ、足下から世界が広がっていくと感じられると思います。

一部の御嶽講の中で、東日本大震災で被災された方々がいらっしゃるとお聞きしております。つくづく人ごとでないと感じ入るところです。被災された皆様には、改めて心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興を願い、これからも続けて日々社頭において祈祷をさせていただきます。

太々神楽、薪神楽の日程変更について

本年は十月に開催しておりました「薪神楽」を九月の開催に、九月に開催していた「神楽と雅楽の一般公開」を十月に変更させて頂きます。例年より麗らかにご鑑賞いただけると思いますので、是非お泊まりで御岳山の夜を楽しみながらご観覧ください。

夜神楽　四月より十一月までの毎月　第四日曜日　於・神楽殿（夜間八時より）

神楽と雅楽の一般公開　六月十七日　十月八日　於・神楽殿（午前十一時より）

薪神楽　九月十五・十六日（土・日）両日開催　於・野外特設舞台（夜間八時頃より